

平成30年3月宮古市議会定例会一般質問通告一覧表

(質問順)

質問月日	質問者	質問事項	
3月6日 (火曜日)	21番 竹花 邦彦 議員 (新風クラブ)	1 宮古創生に向けた「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の取り組みと課題について 2 地域自治区（地域協議会）について	P 1 P 1
	25番 藤原 光昭 議員 (新風クラブ)	1 平成30年度経営方針について 2 地域振興について	P 3 P 3
	7番 中島 清吾 議員 (日本共産党)	1 生活保護法について	P 4
	19番 佐々木 勝 議員 (尽政クラブ)	1 活力に満ちた産業振興都市づくりについて	P 5
	1番 今村 正 議員 (無所属)	1 森林伐採の申請手続きの厳格化について 2 台風災害復旧について	P 6 P 6
3月7日 (水曜日)	10番 西村 昭二 議員 (ネクストみやこ)	1 ペット（飼い犬）のマイクロチップでの管理について 2 浸水、雨水対策について	P 7 P 7
	9番 熊坂 伸子 議員 (無所属)	1 介護需要の将来予測と人材育成について 2 宮古市の行政評価の現状と課題について 3 東日本大震災からの心の復興について 4 「復興『ありがとう』ホストタウン」指定について	P 8 P 8 P 8 P 8
	22番 畠山 茂 議員 (新風クラブ)	1 地域公共交通政策について 2 JR山田線維持について 3 三陸鉄道について 4 路線バス（岩手県北バス）について	P 9 P 9 P 10 P 10
	12番 須賀原チエ子 議員 (ネクストみやこ)	1 子育て事業の今後の展望は 2 子供たちの芸術、音楽の技術向上を 3 女性消防団員の増を	P 11 P 11 P 11
	5番 白石 雅一 議員 (復興を考える会)	1 平成30年度宮古市経営方針について 2 平成30年度宮古市教育行政方針について	P 12 P 12

質問月日	質問者	質問事項	
3月8日 (木曜日)	24番 松本 尚美 議員 (無所属クラブ)	1 平成30年度宮古市経営方針について	P13
	20番 落合 久三 議員 (日本共産党)	1 生産人口減に歯止めをかけ若者が定着する産業振興について 2 介護保険20年一高齢者と家族、市民が求める介護事業について	P15 P15
	26番 田中 尚 議員 (日本共産党)	1 「発展期」の現状認識と課題について 2 公共交通網のあるべき姿について 3 健康でふれあいのある地域づくりについて	P17 P17 P17
	2番 小島 直也 議員 (公明党)	1 選挙の投票率向上について 2 臼木山地区生活環境保全林の利活用について 3 ラグビーワールドカップ釜石大会に合わせた観光施策について	P19 P19 P19
	14番 橋本 久夫 議員 (ネクストみやこ)	1 港の景観形成と港湾ビジョンについて 2 観光ツアープログラムと受入れ態勢について	P20 P20

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月6日(火)

質問順位 1番

質問者 議席番号 21番 竹花邦彦議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
<p>1 宮古創生に向けた「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の取り組みと課題について</p>	<p>平成30年度宮古市経営方針において市長は、急速に進む人口減少・少子高齢化への対応が喫緊の課題との認識を示し、「宮古市総合計画」「宮古市まち・ひと・しごと創生総合戦略」などに掲げる施策を着実に進め、未来を切り開くまちづくり「宮古創生」に全力で取り組むとの決意を述べられた。</p> <p>ついては、宮古創生に向け、あと2年間の計画期間となった宮古市まち・ひと・しごと創生総合戦略の取り組み等について伺う。</p> <p>① 宮古市まち・ひと・しごと創生総合戦略で掲げる3つの基本目標の進捗状況を伺う。また、今後の2年間の取り組みにおける市長の課題認識を伺う。</p> <p>② 基本目標の「しごと」、つまり産業振興と仕事創出について、第一次産業における人材・担い手育成は施策の拡充によって一定の成果が上がっていると評価するが、1次産業の6次産業化や新商品開発、高付加価値化、販路拡大や企業誘致による製造業の振興による若い世代の雇用の場創出について、目標達成に向けた具体的な取り組みの状況を伺う。</p> <p>③ 産業振興と雇用創出の課題に向き合う戦略として新年度で新規に、あるいは重点的に取り組もうとする施策は何か、具体的に示されたい。</p> <p>④ 若年者のU・Iターン促進戦略による具体的成果を示されたい。また、今後のU・Iターン、若者の定住促進に向けた取り組みについて、市長の課題認識とそれに対する施策の組み立ての考えを伺う。</p>	
<p>2 地域自治区(地域協議会)について</p>	<p>合併による行政区域の広域化によって住民の意見が新市の施策に反映されにくくなるのではとの懸念への対応や住民自治の強化、市民と行政が連携する協働のまちづくりなどを目的に、本市では地方自治法に基づく地域自治区制度(地域協議会)を採用し、今日に至っている。</p> <p>しかし、地域協議会の役割発揮と住民の理解度が不十分との指摘がある一方で、合併後の行政機能の縮小等から行政と住民間の地域課題等への認識共有ができない実態も見受けられる。このことから、平成31年度末までの設置とされている地域自治区について、</p>	

	<p>これまでの地域協議会活動を検証し、宮古市自治基本条例のまちづくりの基本原則である「参画と協働」、「住民自治」の充実を図る仕組みの一つとして、再構築の検討が必要ではないかと考える。ついては、次の点を伺う。</p> <p>① 地域自治区設置の目的と役割の観点から、現状の地域協議会の活動について、市長はどう評価しているのか伺います。</p> <p>② 現在の地域自治区が平成31年度末で廃止されることに伴い、地域課題の意見反映参加、取り組みの情報共有、住民自治強化を狙いとした新たな地域協議会等設置を検討する考えはないか伺います。</p>	
--	--	--

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月6日(火)

質問順位 2番

質問者 議席番号 25番 藤原光昭議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 平成30年度経営方針について	<p>震災復興事業も平成30年度末で97%の進捗が見込まれ一定の目途がついた。今後はその先を見据え、震災以前よりも活力があり、魅力あふれるまちとして発展するための取り組みを行う発展期の中間年を迎える。産業・経済の活力強化、雇用の場の確保、人口減少対策が重要だと考えることから次の点について伺う。</p> <p>① 市長は、平成30年度経営方針において産業振興や地域の発展に向けた取り組みを強化し、コンパクトなまちづくりに取り組んでいくとしているが、このことは本市の将来人口減少を見通した考え方に立っての取り組みで、規模を小さくし、地域社会の再生や住みやすいまちづくりを進めようとの考え方か。市長の目指しているコンパクトシティとは具体的にどのようなまちか伺う。</p> <p>② 安定した仕事をもって、子どもを産み育て幸せに暮らせるまちを目指し、一貫して実現に向け取り組んできたとしている。今年度は、一を以って之を貫くとの思いが示されたが、これまでにどのように雇用の場が拡大されたか。また、そのことによって若い世代の人口流出の歯止めに効果はあったのか伺う。</p>	
2 地域振興について	<p>① 市長は、『「森・川・海」とひとが共生する安らぎのまち』を目指して邁進するとしているが、他の自治体と同様、中心部に人が流れ、周辺部の過疎化が進むことが懸念される。均衡ある発展と安心して暮らせる環境が望まれるが、地域振興の具体的な取り組みについて伺う。</p> <p>② 市民から、この先、総合事務所の機能が窓口業務だけになるのではないかと懸念の声が聞かれる。今後もこれまで同様、地域の課題に対応し、市政とのパイプ役を担うと考えてよいか伺う。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月6日(火)

質問順位 3番

質問者 議席番号 7番 中島清吾議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 生活保護法について	<p>市長は、平成30年度宮古市経営方針の中で、「宮古市総合計画」「宮古市まち・ひと・しごと創生総合戦略」などに掲げる施策を着実に進め、未来を切り開くまちづくり「宮古創生」に全力で取り組んでいくと言われました。</p> <p>一方、国民の最低限度の生活を保障する制度として生活保護があります。国は来年度も、この生活保護基準の見直しを行うとしていますが、以下の点について市長の見解を伺います。</p> <p>① 生活保護基準の見直しについての市長の見解を伺います。</p> <p>② 我が党の国会質問によると、国では生活保護基準以下の世帯のうち実際に保護を受けている世帯を表す「捕捉率」の調査について7年間の推計はないようです。本市において、調査の定期化が必要と考えます。市長の見解を伺います。</p> <p>③ 特定の個人や集団へ周囲が与える負の烙印を「スティグマ」と言い、日本においてもそれが原因で、生活保護申請を阻んでいるという指摘があります。憲法25条の権利を暮らしに活かすためにも、制度利用について、市として啓発が必要と考えますが、市長の見解を伺います。</p> <p>④ 本市の就学援助制度は、生活保護基準の1.3倍の所得基準を対象にしています。生活保護基準の見直しにより、対象者が減ることはないのか伺います。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月6日(火)

質問順位 4番

質問者 議席番号 19番 佐々木 勝 議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
<p>1 活力に満ちた産業振興都市づくりについて</p>	<p>① 産業経済復興策について 高速交通網の整備が進み、企業誘致に向けての好環境が整いつつあります。企業立地促進のため、用地整備など受入れ体制づくりを急ぐべきとの提言は、議会のみならず経済・産業界の方々からも多く寄せられていると認識しております。産業経済復興には、企業誘致による産業振興がより効果的であるとの認識は市長も同様であろうと考えておりますが、新年度経営方針の中ではそれに取り組む市長の強い意志が示されていない事に私は大いに不満を感じています。急速に進む宮古市経済の縮小に歯止めをかけるには、企業立地を早急に促す必要があると考えます。「経済は生き物である」とよく言われますが、スピード感を持って対処しなければタイミングを逃すことにもなります。復興事業によるインフラ整備が一段落しようとしている現在、産業経済復興に向けた市長の決意を改めてお伺いします。</p> <p>② 水産業の振興策について 魚市場は、拡張事業が終了し、本市の水産業振興の拠点として本格的な供用がなされ、その成果に大きな期待が寄せられているところです。しかしながら、近年の水揚げ主要魚種の大不漁により、「漁業のまちみやこ」の水産業全体に深刻な影響を及ぼす事態となっております。鯨ヶ崎の水産加工団地に集積し、営業している事業者はもとより、市内各地で加工事業を展開している事業者の経営が活況を呈してこそ、地域経済が活性化し宮古創生につながるものと考えます。新年度経営方針の中では積極的な姿勢が見受けられませんが、多額の税金を投入し拡張整備した魚市場が、水産業振興の拠点としての機能を遺憾なく発揮出来るようになるために、市長はどのような施策を展開しようと考えているのかお伺いします。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月6日(火)

質問順位 5番

質問者 議席番号 1番 今村 正議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 森林伐採の申請 手続きの厳格化に ついて	<p>森林の誤伐や盗伐による伐採業者と周辺の所有者、住民のトラブルを減らそうと、宮崎市では平成29年4月、伐採の際に提出が義務付けられている届出書類を改正し、伐採業者による関係者への事前説明を課すなど手続きを厳しくしました。宮崎市によると、木材価格の落ち着きやバイオマス需要の高まりから伐採はこの数年、増加傾向にある一方、トラブルも増えており伐採契約が済んだ山林の隣接地の所有者から「同意なしに所有する木が切られている」といった訴えが散見されるということです。山の境界線があいまいであり、届け出の書類が簡素であることが背景にあるとみられます。</p> <p>改正された宮崎市の届出書類では、伐採前の地元自治会長や隣接者への事前説明、隣接地との境界の十分な確認など、5項目を設けたほか、これまでより詳しい伐採地の地図や、発注者である土地の所有者の登記簿謄本の添付なども求めています。</p> <p>宮古市でもこのような、手続きの厳格化等の改善策があるかどうか伺います。</p>	
2 台風災害復旧に ついて	<p>一昨年8月29日から30日にかけて東北地方に初めて上陸した「台風10号」の被害は、市危機管理課の把握によると、総額約223億2,500万円です。</p> <p>このうち農林業への被害は、約37億8,300万円で、内訳は農業施設が約6,000万円、畜産等施設が約2,900万円、農地農業用施設が約10億1,600万円、林業施設が約26億7,900万円と、未曾有の被害額となっております。</p> <p>そこで、397箇所もある河川・市道・農道・林道被害について復旧状況をお伺いいたします。被災を受けた397箇所のうち、54.5%の契約が済み事業に着手していると、30年度宮古市経営方針にありました。災害申請をした箇所は何箇所かで、残工事の復旧までの見通しについて伺います。</p> <p>また、農道・林道査定箇所から外れた箇所については、単独予算・維持補修費で補修を施工したと思いますが、それでも残工事はありますか。ある場合は何箇所残っているか伺います。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月7日(水)

質問順位 1番

質問者 議席番号 10番 西村昭二議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 ペット(飼い犬)のマイクロチップでの管理について	<p>ペットブームの一方で、放浪犬や、野犬の出没が相次いでいる。これらの保護対策は保健所の対応になるが、近年ペットの識別方法として、登録時にマイクロチップを埋め込み、飼い主の名前や連絡先を記憶させる技術が実用化されている。</p> <p>マイクロチップでの管理を行うことによって、事故により死亡したときの飼い主の特定や、盗難・災害といった不測の事態により愛犬を探すときなども、スムーズに飼い主に引き渡すことができると思う。</p> <p>以上の理由から登録時にマイクロチップの埋め込みを義務化し、費用を助成することが良いと思うが、市の見解を伺う。</p>	
2 浸水、雨水対策について	<p>昨今の気象の異常により、災害の規模も大きくなっており、宮古市では各地域にポンプ設置などの対策をしているが、現在対策が行われている場所のほかにも、必要な地域はあると思う。</p> <p>特に松山地区、高浜地区においては集中豪雨による被害がたびたびあることから、今後浸水、雨水対策が必要だと思うが、宮古市ではこれらの地域の対策を、どのように考えているか、市の見解を伺う。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月7日(水)

質問順位 2番

質問者 議席番号 9番 熊坂伸子議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 介護需要の将来予測と人材育成について	我が国は今後50年の間、未曾有の超高齢社会に突入し、全国的な介護人材の不足と、介護等の有資格者の奪い合いがし烈になると予想されております。宮古市の人口ビジョンには介護人材に関する今後の需要見通しや供給見込みが盛り込まれておりません。市としてはどのように認識し、予想し、人材育成を含めた対策を立てておられるのかお伺いいたします。	
2 宮古市の行政評価の現状と課題について	今定例会初日の本会議において、来年度予算が提案されました。予算の前提として政策の取捨選択が、きちんとしたエビデンスを元にした行政評価によって行われるべきものと考えます。 東日本大震災後、宮古市の行政評価は一時中断していたとお聞きしましたが、震災から7年近くが経過した今、宮古市の行政評価の活用状況と課題についてお伺いいたします。	
3 東日本大震災からの心の復興について	東日本大震災の発生から7年が経過し、関係各位のご尽力により、道路や住宅等、ハード面での復興は着実に進展しているように見えます。一方、一般社団法人社会的包摂サポートセンターの「よりそいホットライン平成28年度報告書」によれば、被災3県からの電話相談の内容は全国に比べると自殺念慮の率が依然として高く、心のケアはまだまだ不十分ではないかと思われまます。 宮古市においては、東日本大震災による市民のストレスや心の悩みの実態をどのように捉え、また、その対応をどのように進めようとしているのかお伺いいたします。	
4 「復興『ありがとう』ホストタウン」指定について	今般、宮古市が東京オリンピック・パラリンピックに関わり「復興『ありがとう』ホストタウン」の指定を受けました。このことも含めて、今後外国人観光客の増加や、合宿誘致も含めたスポーツ関連観光の活性化が期待されます。 「復興『ありがとう』ホストタウン」事業の具体的構想と、それをレガシーとしてどのように未来につなげていかれるおつもりか、現時点における市長の決意をお聞かせ願います。また、関連してスポーツ大会や合宿誘致の見通しをお伺いいたします。	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月7日(水)

質問順位 3番

質問者 議席番号 22番 畠山 茂 議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 地域公共交通政策について	<p>平成29年3月に策定した宮古市地域公共交通網形成計画では、いかに公共交通を確保維持していくかが課題とされている。平成30年度予算における公共交通に対する予算措置の状況を踏まえ、次の点について伺う。</p> <p>① 宮古市地域公共交通網形成計画では目標として「市民一人当たりの利用拡大として鉄道・バス利用回数を年間24回から平成31年度までに27回に」、「新たな公共交通手法の活用を1地域から4地域へ拡大」、「住民説明会や意見交換会を年3回実施」等を掲げている。推進状況と課題を伺う。</p> <p>② 公共交通維持は、広域な面積、人口減少や財政負担など難しい課題がある。将来的な財政負担の方向性を示し、併せて市民への利用促進を啓発すべきではないか。また、鉄道や路線バスを利用しにくい30%の地域の対策について見解を伺う。</p> <p>③ まちづくりの将来像として、国はコンパクトシティと公共交通ネットワークの形成を掲げている。具体的には医療、介護、商業、公共施設、住居等を特定の地域に誘導して公共交通ネットワークと一体的なまちづくりを目指す取り組みと考える。今後の住民の足である公共交通ネットワーク形成の考え方を伺う。</p>	
2 JR山田線維持について	<p>JR山田線(宮古・盛岡間)は、落石事故から約2年ぶりの平成29年11月に再開し、多くの市民から喜ばれている。しかし、ダイヤなど利便性改善の要望は実現されていない。一日の利用人数は低迷が続き、将来的には路線見直しを行う方向性が示されていると聞く。また、一方では機械化が進み宮古駅から盛岡駅まで各駅は無人化になる予定と聞く。事故が多い路線なので運転手一人で全て対応できるのか不安を感じる。</p> <p>① 現状の利用客数を考えると、将来的に廃線、第三セクターや上下分離方式等の危機感を持つ必要があると思う。また、JR東日本には社会的責任を理解していただき、第二の岩泉線とならないよう市としても環境づくりが必要と考える。一層の利用促進策と山田線維持の考え方について見解を伺う。</p>	

<p>3 三陸鉄道について</p>	<p>宮古・釜石間は東日本大震災から8年目の平成31年3月再開を目指し進められている。JR東日本から三陸鉄道移管により第三セクターとして路線管理は日本一長い163kmとなる。もともと、赤字路線で保守点検、車両維持管理、今まで経験のない多くの踏切管理等の経費を考えると、どうしても経営に不安があり、自治体や市民の負担が大きくなるのではないかと危惧する。今後の利用促進について見解を伺う。</p>	
<p>4 路線バス（岩手県北バス）について</p>	<p>統計によると全国の一般路線バス事業者の7割が経常収支赤字の状態である。岩手県北バスの経営状況も106急行バスの利益や、様々な制度により国や県、市からの補助金で路線維持をしている状況と聞く。現在35系統あるが、運行維持の方向性について伺う。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月7日(水)

質問順位 4番

質問者 議席番号 12番 須賀原 チエ子 議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 子育て事業の今後の展望は	<p>平成30年度宮古市経営方針の中で「急速に進む人口減少・少子高齢化への対応は喫緊の課題である」としている。そこで、将来を見据えた子育て事業について次のことを伺う。</p> <p>① 少子化に伴い私立幼稚園や公立保育所等の在り方が変化すると考えるが、今後の展望を伺う。また、利用者減少により各施設の経営難が予想されるが、市の支援策を伺う。</p> <p>② 学校統合により、学童の家の定員増や、更なる環境整備が必要と考えるが、今後の展望を伺う。</p> <p>③ 近年の核家族化により、妊産婦の心に寄り添う産前・産後ケアが重要と考えるが、市の考えを伺う。また、中でも希望者が多い宿泊ケアの施策が必要と考えるが、市の考えを伺う。</p> <p>④ インフルエンザ等にかかった子どもを預かる病中、病後時保育への希望者が多くいる。また、子どもの病気時に保護者が仕事を休みやすくするために、例えば、子育てにやさしい事業者登録制度などの施策が必要と考えるが、市の考えを伺う。</p> <p>⑤ 待機児童問題解消の見通しを伺う。</p>	
2 子供たちの芸術、音楽の技術向上を	<p>2月に行われた第一回みやこ市民劇「拓けいのちの道を～鞭牛和尚の挑戦～」は大盛況で市民に大きな勇気を与えた。特に「こども劇団みやこデイジー」が、演技や合唱で大活躍し、市民に希望を与えた。芸術や音楽は幼少期からの学びが重要であり、「こども劇団みやこデイジー」は、宮古でもその数少ない学びの場となっている。しかし「こども劇団みやこデイジー」は、市民文化会館指定管理者の自主事業であり、指定管理者変更後に継続できるか不安である。そこで、市として存続できる施策が必要と考える。市の考えを伺う。</p>	
3 女性消防団員の増を	<p>女性の活躍が言われている中で、消防団で女性が活動する事は喜ばしいことである。しかし、宮古市消防団の女性団員は7人である。女性の持つ優しきで市民に接することができるなど、男性の職場に女性が進出することは、様々なメリットがあると考ええる。そこで、女性団員の増が必要と考えるが、市の考えを伺う。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月7日(水)

質問順位 5番

質問者 議席番号 5番 白石雅一議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 平成30年度宮古市経営方針について	<p>① 平成30年度宮古市経営方針では、人口減少、少子高齢化への対応として、「中長期的な視点に立ち、今のうちから種をまき、育てる取り組みを進めてまいります。」とあるが、この人口減少と少子高齢化に対し、どのような政策・ビジョンを持っているのか伺う。</p> <p>② 市長は「安定した仕事を持って、子どもが幸せに育てられるまち」を掲げているが、その実現のためには今後、何が必要になってくると考えるのか伺う。</p>	
2 平成30年度宮古市教育行政方針について	<p>平成30年度宮古市教育行政方針の(2)学校教育の充実では、『児童生徒の個性を伸ばし、未来の社会を切り開く、知・徳・体の調和のとれた「生きる力」を育む教育を推進してまいります。』とあるが、地域の過疎化、少子化が進み、児童生徒数が減少しているこの広大な宮古市で、どのように地域格差なく事業を進めていくのか伺う。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月8日(木)

質問順位 1番

質問者 議席番号 24番 松本尚美議員

質問事項	質問要旨	摘要
1 平成30年度宮古市経営方針について	<p>市長の経営方針を毎年度伺っていますが、将来を見通した当市の現状、山積する課題、経済に対する危機感が職員の作文だからか伝わって来ません。市民総参加、市民協働と文言はありますが、市民、事業者と危機感を共有出来ているのでしょうか。私はシンプルに当市は震災前と比して350億円多い1,500億円となった経済をどの様にして維持、増加させるか、産業別に分析し対応する必要があるものと考えます。どの柱を再生強化させるのか、足りない柱をどう構築するか。解り易く示していただきたい。安定した仕事を持ち、子供を幸せに育てられるまちは当たり前であります。更に必要なのは育った子供たちが一人でも多く定住できるまちを創れるか、引き継げるかであります。『「森・川・海」とひとが共生する安らぎのまち』づくりは私には抽象的すぎて全く理解出来ません。</p> <p>市長は宮古市民を代表してと挨拶をしますが、自分はトッリーダーではない、野球でたとえるならば監督では無く一緒に戦うプレイングマネージャーと立ち位置を示されています。宮古市経営方針は単なる税金、公金の配分方針なののでしょうか。中央政府の長である内閣総理大臣は国民にかかわるすべての最高責任者であります。地方政府である自治体の長である首長、市長はその域内の最高責任者であると私は認識、理解しています。したがって市長は当市の全市民、全事業者の安定した生活、活動に責任を負い経営をする責務があるものと勝手に思っているのは私だけでしょうか。市長の見解をまず伺い、前段の認識を前提に、下記の点について質問をさせていただきます。</p> <p>① まちの基盤となる道路、鉄路、海路の新たな交通ネットワークが形成された変化に対応するとあるが、沿岸道、横断道に対応した交流施設、通過車両が当市で最大量となる結節地区である松山(千徳戸の越)に何故的確に対応しないのか、西の玄関口である区界地区含め説明をしてください。</p> <p>② 宮古駅を中心としたコンパクトなまちづくりとありますが、1,260㎥の広大な面積を有する当市において市域全体のまちづくりの中でのイメージが出来ま</p>	

	<p>せん。説明を願います。</p> <p>③ 再生可能エネルギーの活用だけで、創り出すことがリーディングプロジェクトであったブルータワープロジェクトが消え去り、替わるプロジェクトが示されていません。小規模な木質バイオマス発電施設等廃校地の活用策として何故取り組まないのか。</p> <p>④ 更なる産業振興において、当市の基幹産業である金型、コネクタ産業が示されていません。北上地区における大規模製造工場により数百人規模の人材確保が与える影響の危機感がない。理由は何か説明を願います。</p> <p>⑤ 工業用地の確保、企業誘致のトップセールスが示されていません。市長は人手不足を理由に消極的な考えを公言していますが、意識的に外したのでしょうか。市内事業者の投資も必要ですし、市外からの投資の受け皿も必要です。また、将来を担う若者の選択肢も増やさなければなりません。用地確保、企業誘致は一朝一夕では出来ません。市長は積極的にトップセールスすべきです。市長の見解は。</p> <p>⑥ 市民主権、市民自治の更なる進展のため、参画と協働のまちづくりとありますが、市長は地域内分権を否定しています。自治力を強くし地域を活性化していただくためには、地域内分権は有効な手段と考えます。国においても厳しい財政環境にあって地方のひも付きでない予算の確保、執行を前提とした声を受け、分権が進められています。まだまだ課題は多くあります。地域内分権も簡単には進みません。早急に検討をし、実施に向かうべきです。</p>	
--	---	--

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月8日(木)

質問順位 2番

質問者 議席番号 20番 落合久三議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 生産人口減に歯止めをかけ若者が定着する産業振興について	<p>市長の経営方針の「活力に満ちた産業振興都市づくり」に各分野の産業振興について触れられている。</p> <p>平成30年度予算案には一次産業担い手育成事業や廻来船誘致対策事業などの拡充、また新たな提案が見受けられ評価できる。しかし、復興需要がこの数年で終息を迎えること、また少子高齢化が急速に進み総人口は2030年には4万3,000人、なかでも生産人口は3万3,000人から2万2,000人へと1万人も減少すると予想されており、若者が定着するまちづくりは最重要課題の一つと言える。しかし、継続事業以外にこうした課題に正面から応える事業の提起はなく、産業振興基金積み立てに2億円を計上しているが、なぜか釈然としない。</p> <p>これらの状況を踏まえ、以下の点について市長の見解をお伺いする。</p> <p>① 生産人口が10年間で約1万人減少することの経済的、社会的影響を市長はどのように受け止めているか。</p> <p>② 私は再三「食産業」を軸とする漁業水産加工業の振興、それを推進する工場誘致などを提案してきた。経営方針には、地元農林水産物を活かし、高品質・高付加価値の安定生産を目指す取り組みを支援するとあるが、この事業展開の具体化、スピード感が見えない。現局面は「行動する」ことだと思うがどうか。</p> <p>③ 復興需要の先が見えている今、取り組むべきは「地元で仕事とお金が回る」ようにすることだと思う。経営方針にはこの視点が明確でないように思うが、改めて見解と決意をお伺いする。</p>	
2 介護保険20年－高齢者と家族、市民が求める介護事業について	<p>平成30年度から第7期介護保険事業がスタートする。これに先立って昨年国会では、介護保険法改悪案が民進党、共産党、社民党、自由党の反対を押しきって可決された。国の考える介護事業の方向性は「給付減と負担増」であり「施設から在宅」「軽度外し」など当初の目的に逆行するものと言わざるを得ない。</p> <p>第7期の事業計画が示されたことを踏まえ以下の点について市長の見解をお伺いする。</p> <p>① 介護保険料の引き上げが提起されているが、とく</p>	

	<p>に1号被保険者の生活実態からみて大きな負担増と言える。保険料引き上げは避けられなかったのか、引き上げの判断の理由を示していただきたい。</p> <p>② 要支援1～2の「軽度者」サービスの総合事業（地域支援事業）への移行は2年目となり事業費も増えている。昨年度の総合事業を市長はどう評価しているかお伺いする。</p> <p>③ 地域包括ケアシステムは「高齢者が人生の最期まで住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けるために必要な支援体制」と説明されている。この事業には二面性があると思うが、市長の基本的な認識と地域包括ケア事業の今後の課題をどう受け止めているか、改めてお伺いする。</p> <p>④ 最後に、介護事業に従事するすべての職員の待遇改善が強く求められてきたが、市内事業所での現状を市長はどのように把握しているか。また、改善点があるとすればどのように改善すべきだと考えているかお伺いする。</p>	
--	---	--

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月8日(木)

質問順位 3番

質問者 議席番号 26番 田中 尚 議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 「発展期」の現状認識と課題について	<p>市長は就任以来、市のあるべき姿として「安定した仕事を持って、子どもを幸せに育てられるまち」を目標にして来たとしている。2019年度が最終年度となる「震災復興計画」によると2018年度は「発展期」の中間年にあたるとの認識だが、「安定した仕事」の実現に向けた現状と課題について質問する。</p> <p>① 「安定した仕事」には、産業振興策の充実が欠かせないと考える。「産業立市ビジョン」の具体化として、第一次産業の担い手確保・支援策の拡充、強化は評価できるが、「経営方針」では一部を除けば、現状の説明になっている。震災対応を除き「発展期」をけん引する各種施策と到達点への市長の評価はどうか。</p> <p>② 宮古市は賃金など所得の少ない割に家賃などが高く、暮らしにくいとの指摘もある。私は他の同僚議員とともに一つの解決策として「公契約条例」の導入を以前に提案して来たが、市は先進自治体の事例分析などの検討、結果待ちになっている。同条例は雇用形態にかかわらず、一定額の賃金支払いを市が受注事業者に約束させるものだが、市長の認識と実現意欲はどうか。</p>	
2 公共交通網のあるべき姿について	<p>道路等インフラ整備とともに、それらを生かしたソフト事業の構築も重要になっている。列車、バス、タクシーなど、公共交通網のあるべき姿と路線維持のための助成費の効果と今後の課題について質問する。</p> <p>① 助成費の支給基準が対象や事業名称によって異なると思うが、今後、支給対象の拡大はあるのか。</p> <p>② 事業者が採算を優先すれば、運行路線の廃止や縮小に行き着くが、事業者の経営努力の改善も必要と考える。列車では中心市街地拠点施設整備事業を契機に職員の通勤を可能にするJR、三鉄などのダイヤ改正を実現すべきではないか。</p>	
3 健康でふれあいのある地域づくりについて	<p>「健康でふれあいのある地域づくり」では「いきいき健康都市」の実現へ、「ライフステージに応じてきめ細かな施策を推進していく」とあり、聴覚検査費用の全額助成など新規事業が計上されている。</p> <p>① ウォーキングの奨励による健康づくりと一体のポイントサービス事業が具体化されていない。医療の</p>	

	<p>予防効果が期待されるだけでなく、ポイントを商店街の購買力を高める一つの方策として活用する事業を導入すべきではないか。</p> <p>② 「サーモンケアネット」事業の医療分野で、中核を担うべき県立宮古病院は常勤医の恒常的な不足を抱えている。医師確保へ、市は県立病院の設置目的に照らして抜本的な改善要求をすべきと考えるが市長の見解と決意はどうか。</p>	
--	--	--

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月8日(木)

質問順位 4番

質問者 議席番号 2番 小島直也議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 選挙の投票率向上について	全国の各種選挙において、期日前投票所の投票割合が伸びています。更に投票割合を向上させる方法として、投票所入場券の裏面に宣誓書を印刷することを提案します。あらかじめ宣誓書に記入できることで投票時のストレスの軽減が図られ、そのことにより投票率の向上につながると考えます。既に導入している自治体もありますが、市の見解を伺います。	
2 臼木山地区生活環境保全林の利活用について	日立浜にある臼木山は、岩手県において生活環境保全林に指定され、市の管理で維持されています。市民にもっと親しまれるよう工夫が必要と思います。夏場を楽しませてくれる花木の植栽もほしいところです。浄土ヶ浜、水産科学館と合せて市民の憩いの場として、また、宮古の自然を満喫できる観光の場として整備すべきと思います。市の見解を伺います。	
3 ラグビーワールドカップ釜石大会に合せた観光施策について	釜石市で開催されるラグビーワールドカップや関連スポーツイベントに多くの観戦客が訪れることが予想され、当市にも観光面で影響があるものと思います。市内の宿泊収容能力などの問題点があるなかで、どのような施策を展開するのか伺います。	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月8日(木)

質問順位 5番

質問者 議席番号 14番 橋本久夫議員

質問事項	質問要旨	摘要
1 港の景観形成と 港湾ビジョンにつ いて	<p>① 港の景観の向上について</p> <p>今年6月にフェリー宮蘭航路が開設する。さらに5月と9月には外国クルーズ船が入港。来年には11万トン級の外国クルーズ船が入港することから宮古港は大きな転換期を迎えることになる。「クルーズ船訪日客が2020年に500万人」を目標に全国でクルーズ船を迎え入れる各施策が展開されている。港の賑わいは人、モノ、コト(情報)があつてこそそのもの。しかし、その船の豪華さの反面、受け入れる港の状況を見ると、全体的な景観やら機能を含めて、こうした船のいる絵になる港には遠く及ばない。デッキ上にいる乗船客から「みなとまち」はどう映つるのか。緑地、広場、植栽、ウッドデッキなど「港の景観」や「港の色彩」は重要である。今後、こうした整備計画は施策の中に取り入れられていくのか。多くの人々の記憶に残る宮古港を創り上げていくべきだが、展望を伺う。</p> <p>② 木材港の今後の活用について</p> <p>震災復旧から整った磯鶏地区の木材港に多くのプレジャーボートが係留している。漁船、公的機関の船舶なども入り交じっている。それに伴い係留場所の確保が課題となっている。新年度を迎えるにあたり、いよいよ管理者と利用者の調整が必要なのではないか。港湾振興ビジョンにあるように従来の北側の漁港施設に加え、南側をマリーナの機能、ウォーターフロントの機能を持つ親水ゾーン施設として再整備を図り、早期に藤原ふ頭と一体化した港湾を形成すべきではないか。今後の展望を伺う。</p>	
2 観光ツアープログラムと受入れ態 勢について	<p>フェリーや客船入港に伴い、観光客らの交流人口の拡大が見込まれる。セミナー開催や受入れ機運の醸成、接客研修による外国人旅行者への対応力育成に取り組む中であつて、通訳案内士、ガイドなどの育成と同時にツアープログラムの構築が重要となる。従来の見る観光以外の新たな魅力あるプログラムが求められるが、それらの準備は進められているのか。三陸ジオパーク、本州最東端、兜明神トレッキングをはじめ、閉伊川源流散策など地域資源を活かした森川海の体験プログラム、郷土芸能鑑賞や歴史、神社仏閣巡りなど様々なメニ</p>	

	<p>ューが考えられる。食やグッズの提供も含めてPR方法など、その主体的な役割を果たすのはどの組織になるのか。行政、クルーズ会社、民間事業者、観光団体、NPO、地域住民ら多くの関係者との協力関係を構築、強化する必要がある。具体的な態勢をどう考えているか伺う。</p>	
--	---	--